

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700335		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホーム ほろむい (えがお荘)		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-127		
自己評価作成日	平成26年9月5日	評価結果市町村受理日	平成26年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=t_rue&JigyosyoCd=0175700335-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良好なチームケアを基盤に自分らしく安全・安全な生活を提供している。
また、外出行事にも率先的に出掛け、季節に合わせた外出ツアー・町内会に加入し、地域での花壇の手入れやゴミ拾い・催し物に積極的に参加し、入居者様の思い出に残る生活を提供して行っている。
防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防災対策もしている。また、年2回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行い、各ユニットにて自主避難訓練も行なっている。
常勤の看護師を配置して、介護職員と連携して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 10 月 1 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【変化に富んだ楽しみのある暮らしの支援】
お祭りなど各種地域行事への参加、水族館や花見など頻繁に行う外出行事、ホーム内で太鼓演奏会などの行事開催等々と変化のある楽しい暮らしを支援しています。
【安心感のある医療連携体制】
ホームに複数の看護職員在職や地域協力医療機関医師による日々の来訪など充実した医療連携体制によって、利用者や家族に医療面で大きな安心感を与えています。
【系列事業所との連携と地域との日常的交流】
同一場所に位置する系列事業所との連携があり、合同行事への住民参加や子供たちの慰問、ホームの地域行事への積極的協力など地域との日常的交流があります。
【良好なコミュニケーションによるケアサービスへの反映】
代表者や職員間の良好な人間関係が利用者への優しいサービスに反映され、丁寧に作成されたケアプランによって利用者は安心した日々を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な全体会議・ユニット会議において、施設理念を中心に考え、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について理解できるよう随時説明しています。	安心して自分らしく生きる暮らしを支援する理念をホーム内掲示や会議等で職員の理解と確認に努め、日常業務においても理念を意識しながら利用者へのケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、定期的な草刈りや花壇の手入れなどに率先して参加し、地域の方との交流を図っています。また、避難訓練の際には町内会の方々へ参加・協力をして頂いている。	ホームは、清掃活動や交流会など幌向地区諸行事への積極的参加、児童館の子供たちによる慰問や中学校の体験学習受け入れ、法人代表（施設長）の町内会班長就任など地域との日常的交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症についての理解に役立てようという議題を設けています。また、定期的に町内会向けにお便りを配布し、グループホームの活動内容について理解して頂けるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に根ざしたグループホームのあり方、災害時などの協力体制についてご家族・市関係者・町内会の役員の方などに参加して頂き、意見交換や実践への取組を行っています。	運営推進会議は隣接の系列ホームと合同で開催し、家族や複数の町内会関係者、市職員が参加しています。会議では災害対策などホーム運営関連について意見交換を行い利用者へのサービスに反映させています。	会議議事録の家族への送付は、会議参加者の一部に止まっています。会議に対する家族の理解と会議参加を促すために全家族へ議事録送付の検討を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録・グループホームのお便りを届けるなど、顔を合わせて話ができるように努めています。その都度、運営上の疑問・問題点など相談をさせて頂くなどを心がけています。	運営推進会議には地域包括支援センター職員と共に市職員も参加しています。施設長も頻りに市担当者を訪れて相談や情報交換を行っており、行政との協力関係が築かれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長会議・ユニット会議で随時身体拘束を行わないケアを話し合い、全職員が身体拘束についてのケアマニュアルを基本とし支援を行っています。	職員は、身体拘束をしないケアについて内外の勉強会参加やマニュアルの整備、実務を通して意識付けができており実践しています。日中の玄関施錠は有りませんが、センサーの設置や建物外の見守りカメラで利用者の安全を確保しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ホーム長会議やユニット会議で報告しています。常日頃より、虐待行為に繋がらないよう周知しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護支援専門員を中心とし、外部研修の参加・内部研修の機会を設け、ユニット会議などで職員全員が理解できるようにしています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に合わせ解りやすく説明し、疑問点などについて確認しながら理解・納得して頂くことができるように努めています。その後の疑問点についても随時対応しています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より利用者やご家族と職員が気兼ねなく話せる雰囲気作り、直接、意見・不満・苦情を伝えられる関係作りをしている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話し合い反映させている。	各ユニット毎にホーム便りを発行し、その中に利用者一人ひとりの様子を記載して家族に伝えていきます。ホーム来訪の家族も多く、その都度、施設長や職員と率直に話し合いをしています。家族からの要望等は、ケアマネジャーの支援経過表に記載しながら利用者へのサービスに反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、代表者や管理者が現場と関わりながら、職員と気軽に話せる環境を整えています。職員から各会議などで意見を頂きながら反映させています。	ホームは、施設長、ケアマネジャー、職員間の良好なコミュニケーションによって自由に話し合える環境にあります。法人代表である施設長は毎朝のミーティングやホーム長会議など各種会議に出席して、職員からの要望や提案を聞き、ホーム運営に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員から、シフトの希望を取り代表者が作成を行っています。日常より、職員とコミュニケーションを図り働きやすい環境となるよう話し合いを行い、改善できるようにと止めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修や講習について、随時、受講しています。また、受講した内容を各ユニット会議で報告し、個々のレベルアップを目指しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事により、他事業所との情報交換や交流を行っている。また、定期的に他事業者を訪問し情報交換を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談を行い、困っている事・不安な事などを聞き取り支援に活かしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で、困っている事・不安な事、要望等を聞き取りながら、入居に向けて相談に応じています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の情報、ご家族の意向などを伺い、ユニット会議などで話し合いながら支援の見極めを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることを見極め、日常生活での家事援助など、職員と一緒にいることができる環境を整えています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況など、ご家族来荘の際や電話・手紙等で伝え、情報を共有しながら支援を行っています。ご家族と職員との情報交換を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係性が途切れることがないように、交流を大切にしています。気兼ねなくホームに来て頂くことができるよう環境を整えています。	利用者と馴染みの人や場所などの関係維持のため利用者の要望を聞きながら電話等の連絡や地域住民との交流を支援しています。利用者を訪ねてきた方を歓迎し気軽に過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の座席などに配慮しながら、会話が繋がる環境を整えています。活動の内容についても工夫し提供を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても近況確認を行い、アフターケアにも配慮を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者様と交流する場を多く設け、希望や意向の確認・把握を行うことに努めている。困難な場合には、ご家族から情報を得るなどを行っています。	職員は、日常的ケアサービスを通して利用者の思いや意向を把握していますが、把握困難な場合は家族からの情報や職員間の話し合いで確認し、本人の意向に沿うよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族から生活史について確認を行っています。また、他職種からも情報の収集を行っています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子について、具体的に記録し、職員間で情報の共有・把握を行っています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議などで定期的にモニタリングを行っています。課題についても職員間で確認し支援を行っています。	利用者の担当職員が中心になって利用者の状態を把握し、ユニット会議でケアプランの継続可否を協議しています。プラン変更が必要な際は、家族や医療機関とも相談しながら作成し、会議等を通して全職員が変更したプラン内容を共有しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活経過表への記録、申し送りノートなどを活用し情報の共有と実践を行っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の希望や要望に対して、柔軟なサービス提供を行っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会でのお祭り、花壇清掃などに積極的に参加し、楽しく生活を送ることができるように支援を行っています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診など、緊急時には24時間の連絡体制を整えています。利用者様に合わせた主治医との連携を心がけています。	複数の協力医療機関が有りますが、幌向地区所在医療機関の医師が頻繁にホームを訪れ、利用者の状態に応じて随時、診療をしています。さらに、複数の看護師が職員として在職しており、利用者や家族に医療面で大きな安心感を与えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態の変化など具体的に記録し情報の共有を図っています。必要時には、24時間の連絡体制を整えています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、情報提供や情報収集を行っています。日常生活での留意点について必ず確認を行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様やご家族の希望など、心身状況を踏まえながら主治医を含めて話し合いの場を設けています。	ホームでは希望によって看取りまでの支援を可能としており、入居時に重度化や終末期の指針説明と同意書を頂いています。利用者の状態に応じて再度、家族や主治医と相談し、看取り経験のある看護職員を中心に支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・初期対応については定期的に行っていません。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員や地域の方々にご協力いただき訓練を実施しています。反省点を踏まえながら改善できるように取組を行っている。	夜間想定を含めて定期的避難訓練を隣接事業所と合同で実施し、住民も参加しています。さらにユニット単位で毎月自主訓練を行って災害対策についての意識を高めています。災害用備蓄品は一部備えて居ますが、さらに充実を検討中です。	備蓄品は、自然災害を含めて必要リストを作成し、順次充実することを期待します。また、救命救急訓練は全職員が交代で受けることを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方であるという事を常に意識し、支援を行っています。	職員は、利用者が人生の先輩であることを意識し、日常のケアサービス時に利用者一人ひとりに合わせて誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話やすい雰囲気を作り、希望・要望を伺っています。本人本位を意識し、自己決定ができるよう留意しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調確認や生活のリズムを意識しながら支援を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の意向に添いながら、促しなどの支援を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を把握し食事提供を行っています。家事援助を行うことができるよう配慮を行っています。	献立は食材会社が作成していますが、利用者の嗜好や病状に併せて調理しています。さらに家族も参加する誕生日や季節行事には特別メニューを用意し、外食や地域交流会の焼き肉パーティなど変化のある食事を利用者は楽しんでます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分摂取量など、個々に合わせて提供を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る部分をご自分で行って頂けるよう留意しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し誘導を行っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握してそれぞれの排泄状況を見極めながら排泄時間のリズムを作り、自尊心を損ねないよう配慮した声かけ誘導などでトイレ排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、運動を行っています。野菜の摂取についても配慮を行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、ご本人の状況に合わせて支援を行っています。個々の好みに合わせ温度調節を行っています。	利用者の身体の清潔維持のため週2回以上の入浴を基本として実施しています。入浴を嫌がる時には無理をせず日時の変更や清拭等の配慮をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況に合わせて、休息の時間を設けています。環境にも配慮を行っています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況について、職員全員が把握を行っています。状態の変化について記録し情報の共有を図っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備や片づけなど、職員と一緒にしています。定期的に気分転換を図ることが出来る支援を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの支援を行っています。利用者様の要望を伺いながら外出行事の立案も行っていきます。	日常的にはホーム周辺を散歩していますが、お祭りなど地域行事参加、動物園や水族館見学、外食と毎月複数回の外出行事があり、数多い外出支援は利用者ばかりでなく家族からも感謝されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が希望される場合は、ご家族の了承のもと自己管理を行って頂いています。高額な場合には、事務所にて管理し必要の際にお渡ししています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人へ、連絡の希望がある場合にも支援を行っています。また、お手紙などについても宛先確認などの支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせて壁面飾りなどの工夫を行っています。暖かみを感じることが出来るよう環境を整えています。利用者様の不快とならないよう、職員間で検討を行っています。	ホーム開設後11年を経過しましたが清潔な内部を維持しており、床暖房とエアコン設置で快適な温度管理が行われています。居間兼食堂の共有スペースは長形で見通しが良いため職員も見守りやすい構造です。居間兼食堂には、季節の飾りや手づくり作品などで親しみのある雰囲気があり、利用者は日中を共有スペースでゆったりとくつろいで過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルなどの配置にも配慮しています。また、一人で過ごす事ができる環境も整えています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の物を多く持ち込んで頂けるよう、事前に説明を行っています。	居室にはクローゼットが設置されて室内整理が容易であり、暖房も安心な床暖設備のため室内スペースを広く使えます。利用者は馴染みの調度品や机、冷蔵庫なども自由に持ち込んで配置し、居心地良く暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の表示などの工夫を行い、自立した生活を送ることが出来るように配慮を行っています。		